

2010年12月～2011年6月の主な出来事

24	18	12	9	8	2	26	25	19	15	13	12	7	15	11	7	6	5	4	1	14	11	9	4	3	25	18	15	4	18	15	24										
					6月						5月						4月						3月						2月						1月						12月
					●						●						●						●						●						●						

イヴの夜にクリスマスツリーを表現
 大学入試センター試験(16日)
 ご遺骨返還式および感謝状贈呈式
 プレスリリース「毛包幹細胞が色素幹細胞を維持する仕組みを解明」西村栄美教授
 ※内容は本誌P16を参照
 留学生を囲んで餅つき大会を開催
 プレスリリース「腸粘膜を守る抗体の新たな産生の仕組みを解明」梶木俊聡教授
 難治疾患研究所市民公開講座「最先端生命科学講座シリーズ第1回」
 生体材料工学研究所オープンキャンパス「大学院受験生のための研究所公開」
 医学系大学産学連携ネットワーク協議会「medU-net 第1回シンポジウム」
 東日本大震災
 難治疾患研究所オープンキャンパス
 歯学部口腔保健学科(2専攻)を設置(口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻)
 産学連携推進機構を設置
 M&Dタワー講堂を鈴木章夫記念講堂と命名
 地下水膜ろ過システム給水開始式を実施
 事務系初任職員ガイダンス(6日)
 2011年度学部入学式
 プレスリリース「日本人健康者集団における初のヒトゲノム多様性データベースを公開」稲澤謙治教授
 ※内容は本誌P20を参照
 2011年度新入生オリエンテーション
 於…鈴木章夫記念講堂
 事務系新規採用職員接遇研修(6月13日・28日) 於…(両附属病院)
 プレスリリース「オートファジーによる細胞内浄化が腫瘍発生を防ぐ」水島昇教授



M&Dタワー 災害対応訓練の様子



入学者宣誓を行う学生代表



記者からの質問に答える西村栄美教授



クリスマスツリーを撮影する駅利用者

Information

第2回東京医科歯科大学ホームカミングデイ開催!

2011年10月16日(日) 14:00～17:00
 受付13:30～

卒業生のみならず、大学に足を運んでいただく機会を設け、本学へのご理解を深めていただき、キャンパスを身近に感じていただくことを目的に、「第2回東京医科歯科大学ホームカミングデイ」を昨年度に引き続き開催いたします。今年度は、多くの皆様に参加していただけるようお茶の水祭開催中の日曜日に設定しました。当日は、M&Dタワーの鈴木章夫記念講堂におきまして、講演会を開催するほか、同タワーのキャンパスツアーを計画しております。この機会に、ぜひ、本学に足をお運びください。

☞詳細は、本学ホームページをご覧ください。

News

東日本大震災における本学被災関係者への見舞金を募集

この度の東日本大震災では、本学キャンパス内の建物の一部に亀裂や剥落はありましたが、被災した学生や教職員はいませんでした。しかし、ご家族を亡くされた方、家屋が倒壊された方などがおられたため、大山学長、理事などが発起人となり、被災された皆様への支援の一助となるよう見舞金を募りました。一口1,000円で、6月30日を期限に行い、総額で5,080,579円が寄せられ、発起人会において検討のうえ、見舞金をお渡ししました。なお、この見舞金には、本学で学びたい活躍している留学生により組織された、Thai TMDU Alumniから、1,566,579円が寄せられました。

News

新たに6人が教授に採用、昇任
 (2011年4月1日～6月1日の人事)

4月1日採用
宇尾基弘 教授
 大学院医歯学総合研究科(歯系)先端材料評価学分野

星治 教授
 大学院保健衛生学研究所形態・生体情報解析学分野

鈴木哲也 教授
 歯学部口腔保健学科口腔機能再建技工学分野

4月1日昇任
高橋英和 教授
 歯学部口腔保健学科生体材料加工学分野

4月16日昇任
大川 淳 教授
 大学院医歯学総合研究科(医系)整形外科学分野

6月1日採用
浅原弘嗣 教授
 大学院医歯学総合研究科(医系)システム発生・再生医学分野

03
 2011年度国際サマープログラム(ISP2011)を開催

田賀哲也
 ISP2011ワーキンググループ 座長
 難治疾患研究所 幹細胞制御分野 教授

本 学の国際貢献の一環としてアジア諸国の学生や若手研究者を数日間、講義・シンポジウム・交流事業に招聘する「国際サマープログラム」は今年で3回目を迎え、8月28日～31日に“Organ/Tissue Development and Regeneration-Fundamentals and Clinical Applications”をテーマとして、本学で開催されます。今回は69人の応募者を選考し14カ国24人を招聘します。2009年開始のこのプログラムは、公募や宣伝活動あるいは受講学生の帰国後の経験伝播などを通じて、本学の国際的認知度の向上や、優秀な留学生の獲得に寄与しています。今回は、本学大学院に入学意欲がある採択者が多く、研究室訪問や教員との面談などの機会を多く提供しています。

ISP2011は、3日間の招聘学生対象の講義・キャンパスツアー・交流会などの後、最終日の8月31日には本学の学生・教職員や学外研究者にもご参加いただけるシンポジウムが催されます。講師陣は、本学教員の他、卒業生の大隅典子教授(東北大学)と上田実教授(名古屋大学)の2人、Dr.Xiao Jing (Dalian Medical University)、Dr. Johan Hyllner (Cellarts, Sweden)、そしてクローン羊ドリーで著名なSir Ian Wilmut (The University of Edinburgh)です。ISP2011の参加者にとって充実したものになるよう、WG委員、国際交流センターを中心に全学的な協力を得ながら準備に取り組んでいます。



2010年のISP2010参加者

02
 植込み型補助人工心臓認定施設としての取り組み

長岡英気
 大学院医歯学総合研究科(医系)心臓血管外科 助教

当 科は重症心不全の外科治療に積極的で、既に多数の体外式補助人工心臓の経験があります。現在も4例が入院し移植待機中ですが、平均3年近い移植待機期間の間、体外式は入院継続を余儀なくされるため、自宅療養が可能な植込み型補助人工心臓が切望されていました。昨年12月に国産の植込み型補助人工心臓2機種は承認され、今年3月には保険償還も決定、関連学会が認定した施設と実施医のみが使用できる事になりました。当医学部附属病院も認定施設に選ばれ(全国で12施設のみ)、心臓血管外科の荒井裕国教授が実施医として認定されました。

臨床使用に先立ち5月21日に本学生体材料工学研究所 生体システム分野(高谷節雄教授)の動物実験施設で、仔牛を使った植込み型補助人工心臓EVAHEART(サンメディカル技術研究所)の手術シミュレーションが行われました。本施設は国内随一の大型動物実験施設であり、東工大と共同開発の磁気浮上型ポンプMedTech Dispoの慢性動物試験が行われています。当日はEVAHEART開発者の東京女子医大 山崎健二教授らとともに、実際のポンプで植込みを行い、荒井教授をはじめ心臓血管外科医師、臨床工学技士、手術室・病棟看護師など30人以上がチームとして参加し、当院での新たな人工心臓治療の一步となりました。



植込まれるEVAHEART。ポンプ本体は片手に収まるほどの大きさ(左)。植込みの様子(右)。

01
 お世話になった日本の復興を願って

元ベトナム留学生一同 代表
Dr. Luong Van To My
 ホーチミン医科薬科大学歯学部歯科放射線学講座 主任

ホーチミン医科薬科大学歯学部と東京医科歯科大学歯学部は1996年に学術交流協定を締結しました。その後数年間にわたり、東京医科歯科大学は本学の教員や研究者に留学の機会を与えてくれました。日本で学んだ先端歯科医療技術、最新の学術情報、種々の研究・教育手法は、ベトナムの歯科臨床、歯学研究、歯学教育の発展に大いに役立っています。現在、日本に留学した人のほとんどが大学や国立歯科病院において各専門分野の長となって活躍しています。

当時は、言葉の壁、文化や食の違いに戸惑いましたが、教職員の方々には、優しく辛抱強く指導してくれました。春の桜、夏の花火、秋の紅葉、冬の雪祭り、日本各地の美しい風景など、楽しい思い出ばかりです。

今回、東日本大地震と大津波の被害で、多くの日本人が犠牲となり、美しかった東北の三陸海岸の町が無残な状態になっていることをテレビで知り、大変驚きました。そのような非常事態でも、人々は規律正しく協力しあって避難所生活を送っていることが分かり、あらためて日本人を尊敬しています。お世話になった日本の復興を願って、東京医科歯科大学に留学したベトナム人同窓生は義援金を集めました。少しでも、皆様のお役に立てばうれしく思います。



右から2番目が筆者。